

様式B

令和3年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和歌山市立岡山幼稚園

教育目標 心身ともに健やかで、心豊かな子供を育てる

ゆめ	重点目標	具体的取組		取組の状況
ひと・もの・ことのかかわりの中で一人一人の子供が輝きながら遊ぶ	遊びの中でみえてきた学びを通して、適切な環境や援助を探る	体験活動の充実	豊かな体験活動	野菜の栽培やカレーパーティー等、子供たちの体験の充実を目指した教育を行った。また、様々な経験が出来るよう環境構成をした。近隣の小・中学校との交流等で様々な体験活動を取り入れた。
			地域散策や園外保育の充実	園周辺の和歌山城ホール、和歌山城公園、中消防署等に出かけたり、遠足でさきのせ公園に出かたりした。園外保育で本物に触れたり、季節を感じたり、自然に触れたりする活動を行った。県立博物館での絵の展示も行った。
			園内環境の工夫	園庭が1階・2階に分かれていることを生かし、園児が伸び伸びと遊べる場の環境を整えた。花壇やプランターでは、四季折々の花や野菜を育て、遊びに使えるような環境構成をした。
		豊かな感性や心情の育成	自然とのふれあい	春には、花を使って色水遊びをし、夏は水遊び、秋には落ち葉等を用いて遊びに生かした。園庭の植物も子供の興味もてるように栽培した。JAの協力をいただき、ブロッコリー、大根の栽培を通じた食育にも力を入れた。
			生き物とのふれあい	ウサギや熱帯魚、金魚などを飼育したり、ガラスで育てたり、観察したりすることで、生き物に触れ合う場を設定した。園庭のバッタやセミ、カマキリ、ダンゴムシにも興味をもって捕まえたり、観察したりする教育環境を整えた。
			様々な人とのふれあい	登園後の自由な遊びの時間等、異年齢活動や小・中学校との交流をおこなった。ゲストティーチャーでのわくわくタイム、サッカー教室等の活動を通して、いろいろな人とふれあう場を設定した。
	子育て支援の充実	保護者への啓発	行事の様子や子供たちの活動の様子などを手紙や掲示板、ホームページなどを通して、園での取組を発信した。新型コロナウイルス感染症が流行しているため中止になる行事も多く、保護者同士のふれあいの場が少なくなった。	
		保護者との連携	降園時等に子供の様子や活動の様子を伝えたり、講演会を開催したりして、家庭との連携を深めることに努めてきた。親子コンサートや親子での体操教室も行った。	
		親子のふれあいの場の提供	今年度も、毎月うちどくコーナーの絵本を入れ替えたり、未就園児の集いを行ったりして、親子のふれあいの場を提供した。園庭開放と親子遠足は新型コロナウイルス感染症が流行したため、中止となった。	

保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

アンケートの項目では、ほとんどの保護者から高評価をいただいた。広い園庭ではないが、たくさんの野菜を栽培し、食育にも生かしている。たくさんの生き物も飼育し、環境的にはよく工夫されているとの評価をいただいた。今後も、一人一人の子供の気持ちに寄り添いながら、保護者とともに子供の教育を行い、本園の「心身ともに健やかで心豊かな子供を育てる」という教育目標に近づける努力を今後も進めていきたい。しかし、園での様子が伝わっていないというご意見もあり、今後、保護者への発信の仕方をもう少し考える必要があると考える。

今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

本園は単独園ということもあり、特色を生かしながら様々な活動を取り入れてきた。活動の中で、ひと・もの・こととふれあうことができるよう、園外保育や行事等を計画し、取り組んだ。その様子を手紙や掲示板、ホームページ等で随時知らせてきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、保護者同士のかかわりの場が少なくなってしまったため、子育てに不安を感じている保護者の声も聞こえてきた。次年度には、保護者同士がふれあい、教師と保護者が一丸となり子育てができる環境を整えていきたい。

学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

- 子供の主体的な活動と園のイベントをうまくリンクさせ、子供の成長につなげていることが良いと感じた。
- 園児数の減少は課題でもあるが、教員の目が行き届きやすいというメリットもある。
- アンケートの少数意見も大切に考え、保護者により一層岡山幼稚園の幼児教育を理解してもらえるような働きかけをしていってほしい。
- 「遊びや学び」については、保育者が幼児期の遊びが小学校のどの学びに繋がっているのかを意識することが大切である。